

岩手県立 博物館 だより

Newsletter of the Iwate Prefectural Museum
岩手県立博物館ホームページアドレス
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>

2022. 3 No. 172

目次／テーマ展「金田一家収蔵資料展—金田一勝定を中心に—」表紙
／いわて文化ノート「館藏品で見る江戸時代のヒット本」 p.2-3
／展覧会案内「金田一家収蔵資料展—金田一勝定を中心に—」 p.4-5
／開館41年目 入館者300万人達成に思うこと／事業報告「ICOM-DRMC年次大会および陸前高田シンポジウム等の開催」 p.6
／事業報告 秋の学びイベント「たいけん！むかしのくらし」／事業報告 博物館でまなぶ岩手の歴史講座p.7／インフォメーションp.8



岩手県立博物館 令和三年度テーマ展

金田一家収蔵資料展

—金田一勝定を中心に—

2022.3.5(土) → 5.8(日)

主催：岩手県立博物館・公益財団法人岩手県文化振興事業団 会場：岩手県立博物館 特別展示室

● 開館時間
9:30～16:30 (入館は16:00まで)

● 公開中の休館日
2022年 3月7日(月)・14日(月)・22日(火)・28日(月)
4月4日(月)・11日(月)・18日(月)・25日(月)

● 入館料
一般310円(140円)・学生140円(70円)・高校生以下無料
※()内は20名以上の団体割引料金

● 免学校教育活動で入館する児童生徒の引当者は申請により免除となります。

● 障害手帳、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、及びその付添いの方は無料です。

● 岩手県子育て支援(次男・三男)対象者で、バスタードに記載のあるお子様とご一緒に来館された場合、入館料免除となります。



岩手県立博物館
IWATE PREFECTURAL MUSEUM
〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松原34 TEL 019-661-2831 FAX 019-665-1214
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>

■いわて文化ノート

館蔵品で見る江戸時代のヒット本

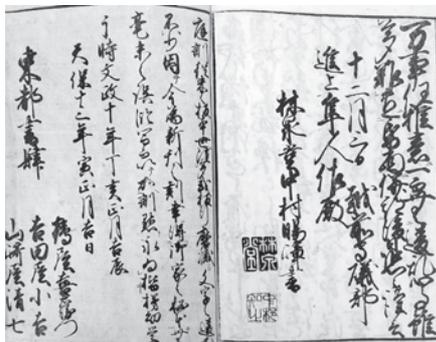
専門学芸員 昆 浩之（歴史部門）

■はじめに

当館には数多くの古書籍が展示・収蔵されています。今回は当館が所蔵している書籍のうち、江戸時代のものであり複数冊収蔵されている書籍を紹介していきます。「同じ本がたくさんある」ということは何を意味するのでしょうか。

■児童の教科書『庭訓往来』

『庭訓往来』は14世紀半ばに作られたといわれている往来物（手紙のやりとりの形式をとり作成された教科書）の一種で、当館には7点収蔵されています。江戸時代より明治時代初期にかけ、庶民の家庭教育あるいは寺子屋用の教科書として盛んに学ばれたところから、おびただしい数が流布し、写本で30種・刊本で200種を数えます。1年12ヵ月分の手紙文が記載され、1ヶ月往復2通ずつ計24通と「8月13日状」1通の計25通から構成されています。庭訓とは、父から子への教訓や教育を意味する言葉で、『論語』にある孔子が庭を走る息子を呼び止め礼を学ぶよう諭したという故事に因みます。手紙のやりとりと言われても私を含めた現代人にはあまり想像がつかないかもしれませんが、実際に目を通してみると、それほど長くない手紙文の中には時候の挨拶、多様な語句や表現、地名や名所等も盛り込まれており、知識や教養が凝縮されていると言っても過言ではありません。『庭訓往来』は何



『庭訓往来』の奥付刊記

を重点に学習するかによっていくつかの様式が存在します。写真のものは奥付刊記に天保13年（1842）と見えるので江戸時代後期に刊行されたもので、本が比較的大型（縦26cm×横17cm）であり、文字が大きく行書体で書かれていること等の特徴から、習字を目的として編集された「手本系」とよばれる様式のものと思われます。

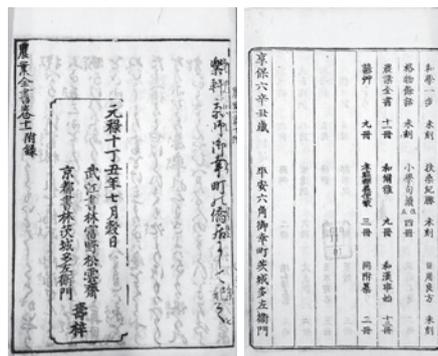
■農家のバイブル『農業全書』

『農業全書』（全11巻）は宮崎安貞（1623～1697）によって記された農書で、元禄10年（1697）7月に刊行されました。当館には3組が所蔵されています。本書の構成は、第1巻で農作業全般にわたる農民の心得を述べ、第2巻～第10巻までは各種作物について、特性や成育法等を個別に論じています。

18世紀は数多くの農書が刊行されましたが、その大部分はある特定地域の農

業を指南するものでした。この『農業全書』のみが系統的に叙述された全国的農書であり、歴史的に見ても非常に重要な著作です。もちろん、このような体系的農書が生まれる背景には農民側からの要請・要望があることも無視することはできません。

宮崎安貞は広島藩主宮崎家に生まれ、25歳の時に福岡藩主黒田家に仕えましたが、30歳の時に職を辞し、現在の福岡県福岡市に居住し自ら農業をしながら、農業技術の改良・農民指導などにあたりました。また、西日本各地を巡って農業の調査研究をするとともに、中国の農書・本草学（博物学）も学びました。

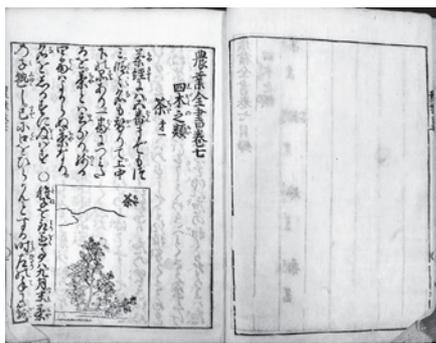


Aの奥付刊記（左）とBの奥付刊記（右）

当館所蔵本のうちの2組を比較してみます。仮にこの2つをABとすると、Aは全体的に傷みが多く、欠巻もあります。Bは保存状態が非常によく、全巻揃っています。『農業全書』は第1巻の裏表紙もしくは第11巻の奥付刊記を見ると、刊行年がわかるようになっています。Aは第1巻が欠けているため裏表紙を確認することができないため、奥付刊記を見てみると「元禄十丁丑年七月穀日」（穀日は吉日と同じ意味）とあることから、Aは元禄10年の初版本ということがわかります。一方Bの奥付刊記には「享保六年丑歳」とあり、享保6年（1721）の享保版ということがわかります。『農業全書』は明治以降も刊行さ



『庭訓往来』の裏表紙



『農業全書』巻七 四木之類 茶

れたことを踏まえると、当館所蔵の2組は初版本と享保版であり、両者とも古い刊本ということになります。安貞は元禄10年（1697）に75歳で没しますが、『農業全書』の初版刊行も同じく元禄10年7月です。まさに人生を捧げた安貞の一大著作だったと言えるのではないのでしょうか。

■武士の必読書『孟子集註』

当館には「孟子」と名がつく書物が20点ほど収蔵されています。「孟子」は人物名であり著作名でもあります。まず人物としての孟子（紀元前372～紀元前289）は中国戦国時代の思想家で性善説を唱えた人物として有名です。その孟子と諸侯（土地支配を許された貴族）との対話をまとめた書物が『孟子』で、成立年は不明ですがおそらく孟子の死の前後には原型となるものはできていたと思われます。では『孟子集註』とは何かといいますと、この『孟子』という書物に中国南宋の儒学者で朱子学を大成した朱熹（朱子、1130～1200）が解説を加えた書物です。そもそも『孟子』は朱熹が現れるまでは中国でもそれほど重要視されていませんでした。ほぼ忘れられていた『孟子』を四書五経の一つとしてまで価値を高めたのは朱熹その人なのです。日本では朱子学が江戸幕府から官学として重要視され保護された結果、『孟子』を含む四書は武士階級にとって必読の倫理書となりました。



『孟子集註』の落書き

当館に所蔵されている『孟子集註』には、この本を所有し勉強していた人（おそらく武士）のいたずら書きのようなものが描いてあります。刀を差して闊歩していた武士も、やはり勉強は嫌で苦痛と感じていたのかと思うと、妙な親近感が湧いてきます。

■経世書『三国通覧図説』

「経世」とは「経世済民」という言葉の一部で「世の中を治める」という意味です。経世書は今風如果说政治意見書でしょうか。『三国通覧図説』は林子平が著したもので、天明6年（1786）に刊行されました。日本本土と琉球・朝鮮・蝦夷地および小笠原諸島の地図5枚と、その解説書1巻とで構成されています。林子平は江戸で幕臣の次男として生まれ、姉が仙台藩主伊達宗村の側室となった関係で、兄が仙台藩士に取り立てられました。姉は宗村の死後に仙台へ下ることとなり、兄もまた仙台詰めとなった結果、子平は兄に伴われ仙台へ移ることになりました。子平の身分は「無禄厄介」、要するに兄の給料のお世話になって生きる自由人とも言うべき立場でしたが、子平はそれを逆に利用し、多くの知識人と交流することで見識を深めました。

『三国通覧図説』の三国は李氏朝鮮、琉球王国、蝦夷地（北海道）を指します。子平が特に詳細に論じたのは蝦夷地でした。彼はロシア帝国の勢力が蝦夷地の周辺にまで及んでいることを指摘し、蝦夷地を日本の一部とみなして積極的に開発し、ロシアの南下政策に対抗することを主張しました。のちに彼の著作『海国兵談』が幕政批判の嫌で版没収となった際に、同時に本書も絶版となりました。当館には『三国通覧図説』が3点収蔵されていますが、そのような事情のため刊本ではなくすべて写本となっています。そのうちの2点の同じページを

比較したものが以下の写真です。



『三国通覧図説』の写本の比較

筆跡も絵の雰囲気も違いがあります。ただどちらの写本を見ても伝わってくるのは「知への探求心」です。一方の写本の包装紙には「于時文政十三寅三月於東都求之 信陽小泉郡芝生田村 小林市右衛門政虎」とこれを書いた人物名が記載されています。

■おわりに

本はその時代に求められた知識や必要とされた資質なども伺い知れます。「たくさん存在するもの」は「価値の低いもの」となりがちですが、それだけ「たくさんの人に使われているもの」とも言えます。ものには必ずそれを作った人、使った人、保存してきた人がおり、ものを見るということは、過去の人たちの生き様を感じることと同じことなのかもしれません。

■展覧会案内

テーマ展「金田一家収蔵資料展」—金田一勝定を中心に—

会期：特別展示室 令和4年3月5日(土)～5月8日(日)

当館は、平成14年度から金田一家から資料寄贈をしていただき、現在まで1392点を登録してきました。金田一家は、盛岡銀行（現在の岩手銀行赤レンガ館）、岩手軽便鉄道（けいべん）を創業した金田一勝定、その娘婿で花巻温泉の創業など県内35事業の役職に就いた金田一国土を輩出した名家です。今回の「金田一家収蔵資料展」では、博物館活動の根幹である資料収集・調査研究の成果を幅広く公表します。

さん だいちかつさだ
■金田一勝定

弘化5年（1848）2月12日～大正9年（1920）12月31日

金田一家は士族から商人に転身。勝定は戊辰戦争に出征し負傷します。

明治29年（1896）に盛岡銀行、明治37年（1904）の盛岡電気株式会社の創立に尽力し、明治44年（1911）に盛岡銀行頭取、岩手軽便鉄道の初代社長、翌年には盛岡電気の社長に就任、岩手の財界首位の地位へと昇りました。



金田一勝定

■盛岡銀行

明治27年（1894）、第一国立銀行盛岡支店の廃業が決定し、岩手の公金取扱い業務は第七十七国立銀行盛岡支店に譲渡しました。岩手県の第八十八国立銀行、第九十国立銀行は公金扱いができないため、岩手でも公金の取扱いができる銀行が必要となり、盛岡の実力団体である「盛岡交話会」の会員25名のうち、20名が中心となり、明治29年（1896）に第九十国立銀行の一室を間借りして、資本金5万円で創業しました。取締役会長は佐藤清右衛門で、後に村井弥兵衛に。明治44年（1911）に村井が死去したことに伴い、金田一勝定が就任しました。

明治30年（1897）、資本金70万円となり、翌31年（1898）には岩手県金庫事務を取り扱い、37年（1904）には宮城県（みやぎ）の七十七銀行から国庫取扱い事務を引き継ぎ、県内最大級の銀行へと成長しました。

この間に、花巻、日詰（紫波）、久慈、福岡（二戸）、岩谷堂（奥州）、黒沢尻（北上）、盛（大船渡）、千厩（一関）、一関、遠野、水沢（奥州）と店舗を拡充し、大正9年末（1920）、金田一勝定の死去により、金田一国土常務が頭取に就任しました。

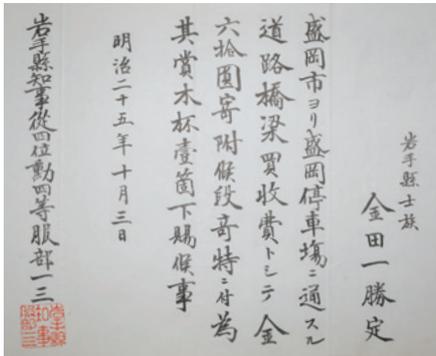
明治44年（1911）、辰野金吾（たつの きんご）（東京駅設計者）と葛西萬司（かさいまんじ）（盛岡市出身）によって中ノ橋に本店社屋が完成しました。しかし、昭和6年（1931）の岩手金融恐慌のあおりを受けて、昭和7年（1932）に休業し、昭和11年（1936）に本店社屋が岩手殖産銀行（現岩手銀行）に売却されました。社屋は、昭和58年（1983）岩手銀行が本店を新築移転し、岩手銀行中ノ橋支店、平成6年（1994）に国の重要文化財となり、平成28年（2016）には、岩手銀行赤レンガ館となり、現在に至っています。



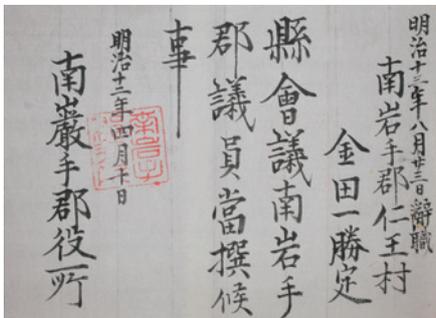
盛岡銀行預金通帳

■金田一勝定の業績

勝定は、実業家としてだけでなく、実は政治・社会福祉事業の面でも活躍しています。政治活動を挙げれば、県議会議員（南岩手郡）、仁王村・上田村会議員、盛岡市議会議員として、社会福祉では、日本赤十字社岩手県委員・会計幹事、大日本消防協会岩手県支部委員として活動しました。また、経済活動で得た資金を多くの福祉団体や医療機関の活動支援のために寄付を行っていました。明治17年（1884）に火災が発生した際に玄米百俵、南岩手郡仁王他五ヶ村戸長役場新築費として5円を寄付、南岩手郡旧厨川小学校建築費として1円を寄付、国道改修に係る土地3畝14歩を寄付、盛岡市街改修に係る土地3歩を寄付、盛岡停車場に通ずる道路橋梁買収費として60円を寄付、また、日清戦争や日露戦争の際にも寄付を行っていました。テーマ展では、当選証書15点（県議会議員、盛岡市議会議員等）、金田一勝定への辞令・委嘱状11点（日本赤十字社等）、金田一勝定への感謝状45点（日本赤十字社、岩手県教育会、岩手公園費寄付、明治神宮奉賛会など）を展示します。



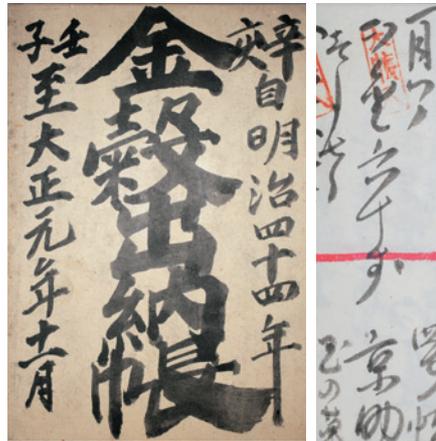
寄付金感謝状



県議会議員当選證書

■実業家 勝定

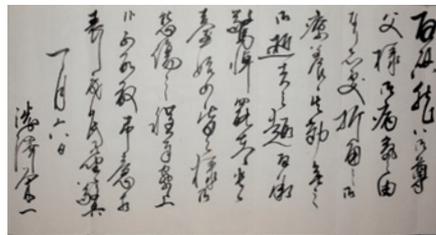
勝定は、盛岡銀行、盛岡電気株式会社、岩手軽便鉄道と大きな事業に関わっていただけでなく、個人的な資金の管理記録も行っていました。大福帳、金銭出納帳には甥の金田一京助への学資送金記録や京助への御年玉の菓子代60銭の記載があり、勝定がきちんとお金を管理していたことがうかがい知ることができて興味深いです。テーマ展では、金穀出納帳（出金六十銭、京助へ御年玉の菓子代）、大福帳（二高時代の京助への学資送金など）、算盤（金田一勝定の名入り）、盃（盛岡銀行など）など事業経営に関する資料24点を展示します。



金田一京助への御年玉の菓子代を記録した金穀出納帳

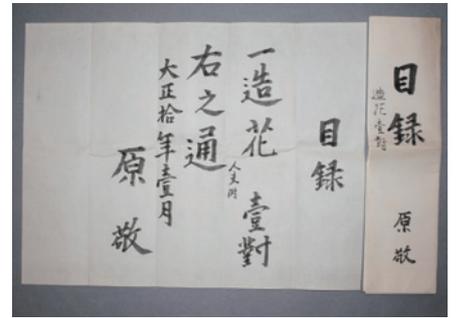
■勝定を偲ぶ

勝定は、大正9年（1920）12月31日に亡くなります。戒名は「鐵心院銀覺電榮居士」であり、鉄道・電気・銀行事業に力を注いだことが窺われます。実業家であることから「東北の渋沢栄一」とも評されました。葬儀には全国から多くの政治家・実業家・著名人が参列しました。金田一家には、当時、読まれた渋沢栄一や高橋是清大蔵大臣の弔詞が残されています。テーマ展では、弔詞、弔慰者芳名録（原敬など）、葬儀目録など6点も展示します。



拜啓然ば御尊
父様御病氣之由
なりし処、折角の御
療養其効無之
御逝去之趣拝承
驚悼能任候
貴台始め皆々様の
愁傷之程奉察上
候、不取敢弔意相
表し度、如此御座候、敬具
一月六日
渋沢栄一

渋沢栄一の弔詞



金田一勝定葬儀目録（原敬など）

■金田一国土

明治16年（1883）7月14日～昭和15年（1940）2月11日

醬油屋の次男として生まれ、明治37年（1904）、勝定に見込まれて養子となり、大正7年（1918）、二郎から国土と改名しました。

大正9年（1920）、勝定の病没後に地位を継ぎ、盛岡銀行頭取、岩手軽便鉄道社長、盛岡電気工業社長、盛岡信託会社頭取、盛岡貯蓄銀行頭取、三陸水産冷蔵社長、花巻温泉社長、花巻温泉電気鉄道社長、盛岡商工会議所会頭など35事業の役職に就き、県内の銀行、運輸、交通、電気などの中心的な地位となりました。特に、花巻温泉を創業し、一大総合レジャー施設にまで発展させたことは、国土の最大の功績として称えられています。



金田一国土

（主任専門学芸調査員 菅野 誠喜）

開館41年目 入館者300万人達成に思うこと

岩手県立博物館長 高橋 廣至

令和3年11月13日（土）、岩手県立博物館の開館以来の入館者数が300万人に達しました。長年、岩手県立博物館を支え、ご協力いただきました全ての皆様に心より感謝申し上げます。

記念すべき300万人目のお客様となられたのは、花巻市からご家族でいらした古館俊也さん（44歳）、奈奈さん（43歳）ご夫妻と二女の知宙さん（10歳）でした。古館さんご一家は1、2か月に一度は来館されているとのこと。そして、知宙さんからは「県立博物館でダイオウイカの展示を見るのが楽しみ」とのお話を聞き、いつもご家族で博物館での時間を楽しんでいらっしゃることを知り、大変嬉しい気持ちになりました。

岩手県立博物館は昭和55年開館しましたが、それまでの博物館は、まだまだ

一般庶民には縁遠い存在でした。博物館は専門的な研究や勉強をする人が訪れる場所というイメージが強かったからです。41年前の県立博物館落成記念式典で、当時の中村直知事は「この県立博物館は、開かれた博物館として、広く県民に利用されることを念願しています」と話されました。

「開かれた博物館」とは、年齢、性別、学歴を問わず誰でもが学習できる場として、沢山の方が訪れてくれる博物館に違いないのですが、果たして、人は何を求めて博物館に出かけるのでしょうか。多くの方は、博物館に「面白さや楽しさ」を求めているのかもしれませんが。私は博物館の「面白さや楽しさ」は、知的好奇心から生まれるものと思っています。知らなかったことを知る楽しさ。更にもっ

と知りたいという思い。そして、学ぶことは面白い、楽しいという気持ちですが、また、博物館に足を向かわせるのではないのでしょうか。

岩手県立博物館は、常に「知的好奇心をくすぐる博物館」であり続けたいと思っています。今後とも一層のご支援を賜りますよう、よろしく申し上げます。



記念式典のようす

■事業報告

ICOM-DRMC 年次大会および陸前高田シンポジウム等の開催

年次大会 2021年11月4日（木） 陸前高田シンポジウム 2021年11月6日（土）

ICOM-DRMC（国際博物館会議博物館防災国際委員会）は、2019年のICOM京都大会で新たに発足した組織であり、その初の年次大会が、2021年、誕生の地である日本で催され、当館も主催者の一員として、企画・運営に参画しました。

コロナ禍の影響は色濃く、国外からはオンライン参加となるハイブリッド形式がとられましたが、30の国・地域から、のべ300名を超える参加を得ることができました。

11月4日に東京国立博物館で年次大会が開催された後、翌5日から7日にかけては、本県に会場を移し、当館や陸前高田市立博物館等の視察、そして11月6日に陸前高田市内で行われた公開シンポジウムへの参加を主な内容とするエク

スカーションが挙行されました。

「市民と博物館がまもり、つなぐふるさとの宝」と題された陸前高田シンポジウムでは、岩手・宮城・福島3県において、東日本大震災で被災した博物館・文化財等の再生に向けた取組に最前線で従事した博物館関係者が一堂に会し、県の枠をこえて、ともに発災からの10年間を振り返るとともに、これからの10年間を描くという、得難い機会となりました。

また、オープニングアトラクションとして披露された陸前高田市立気仙小学校の皆さんによる力強い「気仙町けんか七夕太鼓」、県立高田高等学校3年大友結衣さんの清々しいアナウンスはいずれも来場者から好評を博しました。復興はなお道半ばとはいえ、これからの陸前高田



エクスカーションにおける当館視察

市を担っていく世代の躍動を国内外に発信できたことも、本事業の一つの成果といえるように感じております。

なお、年次大会および陸前高田シンポジウムの内容については、全編がインターネット上で公開されています。ご興味のある方は、ぜひICOM日本委員会のホームページをご覧くださいませ。

（専門学芸調査員 目時 和哉）

■事業報告

秋の学びイベント「たいけん！むかしのくらし」

開催日：令和3年11月21日（日）

今年度は、「たいけん！むかしのくらし」として秋の学びイベントを開催しました。稲の脱穀・石臼・昔の灯りや洗濯を体験するコーナーを設け、当館の体験学習室とテラスにおいて、ご予約いただいた方を対象に、45名の皆様にご参加いただきました。

昔の洗濯では、^{かなだらい}金盥・洗濯板・サイカチ・トチ・エゴノキの実を使い、実際に洗濯してみました。これらの実をぬるま湯で揉むとどンドン泡が立ってきます。昔の洗濯は腰をかがめて冷たい水で行うため苦労もありましたが、身近な植物を使った洗濯は自然にやさしく、汚れを目で確認しながら行うことができました。

昔の灯り体験では、^{あんどん}行灯・^{ちようちん}提灯・^{ろうそく}燭台の蝋燭やイグサの燈明芯に火を灯し、それぞれの役割をご紹介します。また、

サラダ油と小瓶・ティッシュペーパー・アルミホイルを材料に災害時に役立つ簡易的なランプ作りも行いました。

石臼のコーナーでは、大豆などの実を挽いてもらいました。炒った大豆は石臼をとすることでどンドン香ばしくなり、細かな粉になっていきました。

稲の脱穀では、トピック展「稲の収穫」の展示資料である千歯こき・^{まんこく}方石・^{とうみ}足踏み脱穀機・唐箕などの説明をとおして稲の刈り取りから乾燥・脱穀・^{きすりうす}糎すりの様子をご紹介した後、実際に足踏み脱穀機や唐箕、木摺臼を使って脱穀・糎すりの作業に挑戦してもらいました。昔の道具を使ったこれらの作業は、お米を一粒も無駄にしないよう協力して行っていたことを学んでいただけたと思います。

今後もこのような昔のくらしや知恵を

体験することができる楽しいイベントを企画していきたいと思います。

今回のイベント実施にあたって、岩手県立盛岡農業高等学校様から稲束を、株式会社 IBC 様からはサイカチの実をご提供いただきました。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

（主任専門学芸員 近藤 良子）



■事業報告

博物館でまなぶ岩手の歴史講座

開催日：令和3年10月16日、23日、30日、11月6日、13日、20日（いずれも土曜日）

この講座は、歴史を専門的に学んだことのない方や基礎から学びなおしたいと考えている方を主な対象として、当館歴史部門の学芸員4名によるリレー形式で開催しました。内容は、古代から現在までの本県及び本国の歴史展開の概説と、史料の取扱法の解説でした。

初回は史料読解に必要な考え方や時代ごとの史料の特徴、読解に有用な書籍の紹介、2回目は『東鑑』^{あづまかみ}の読解を通して、古代・中世の日本の歴史の中で岩手の人々が果たした役割について考察しました。3回目は、近世の岩手の歴史の概説、4回目は、当館で所蔵する近世の実物の歴史資料を見る演習を通して、江戸時代の岩手の人々の暮らしを考えました。5回目は、近現代という時代の特徴と史料批判の方法、当館の展示品から見

る太平洋戦争の特徴についての概説でした。6回目は、明治維新の後、廃藩置県から5年をかけて岩手県が現在の形になっていく過程を、順を追って確認する講義でした。

今年度の講座には、8名の方に参加いただきました。6回にわたる長い講座でしたが、終始熱心に受講していただきました。特に、史料を読んだり、江戸時代の地図を実際に広げて見たり、という演習の回が、好評をいただきました。歴史好きの方が歴史研究に触れ、専門的に学ぶきっかけになる講座にできたのではないかと考えております。

来年度も、同様の講座を開講する予定です。多くの方々に参加いただけることを願っております。来年度は今年度の講座をうけて、より皆様に歴史の楽しさや



このような古地図を実際に見ました。

奥深さを知り、歴史を身近に感じていただけるよう、内容を工夫してお待ちしております。

（専門学芸調査員 工藤 健）



岩手県立博物館

IWATE PREFECTURAL MUSEUM

インフォメーション

〈令和4年3月1日～令和4年6月30日〉

新型コロナウイルス感染防止への対応について

新型コロナウイルスへの対応のため、制限を設けながら開館しております。

入館の際にはマスクの着用をお願いしております。また手指の消毒、体調確認や体温測定へのご協力をいただいております。混雑する場合は入館や利用を制限し、状況によって臨時休館となることがあります。来館される皆様には大変ご面倒をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

最新の情報につきましては当館ウェブサイト、SNS等でお知らせいたしますので、ご確認いただきますようお願いいたします。

- ・「体験学習室」は、土日祝日等を中心に利用制限しております。詳しくはお問合わせください。
- ・「映像室」は定時上映のみ行い、上映開始後の途中入場はご遠慮いただいております。詳しくはお問合わせください。
- ・幼児～小学生向けのイベント「たいけん教室」は、定員を減らして開催していますが、一部のプログラムに限り緩和しております。
- ・団体での入館は午前・午後各100名程度までとします。解説時は30名まで受付、さらに数グループに分かれていただくことがあります。

お知らせ

●ゴールデンウィーク期間のお知らせ

4月29日から5月5日までは、毎日開館いたします。
ゴールデンウィークイベントは、内容が決まり次第HP等でご案内いたします。

展覧会

●テーマ展「金田一家収蔵資料展～金田一勝定を中心に～」

令和4年3月5日(土)～令和4年5月8日(日)
会場：2階・特別展示室
◆展示解説会 14:30～15:30 特別展示室 当日受付 要入館料
①令和4年3月5日(土) ②令和4年3月19日(土)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、展示解説会の定員を15名、と人数制限しております。詳しくは当館までお問い合わせ下さい。

●企画展「赤色に宿るチカラ」

令和4年6月11日(土)～令和4年8月21日(日)
会場：2階・特別展示室

県博日曜講座

第2・第4日曜日 13:30～15:00 講堂 当日受付 聴講無料
定員50名程度

当館学芸員等が岩手の文化や歴史、自然について解説します。

*展覧会関連講座

- *3月13日「世界の中の岩手～金田一国土の時代～」講師：工藤 健(当館学芸員)
- *3月27日「金田一勝定と国土が現在に残したもの」講師：菅野誠喜(当館学芸員)
- 4月10日「考古学から見た岩手の歴史」講師：金子昭彦(当館学芸員)
- 4月24日「石碑に刻まれた三陸津波の記憶」講師：日時和哉(当館学芸員)
- 5月 8日「生命史をひもとく～白亜紀～」講師：望月貴史(当館学芸員)
- 5月22日「十和田平安噴火と安比川流域の集団(仮)」
講師：丸山浩治(当館学芸員)
- 6月12日「世界の中の岩手～明治初期の出来事を通して～」
講師：工藤 健(当館学芸員)
- 6月26日「盛岡藩の諸職人について(仮)」講師：昆 浩之(当館学芸員)

週末の催し

◆ミュージアムシアター

毎月第1土曜日 13:30～15:00頃 講堂 当日受付 視聴無料
定員50名程度

- 3月5日 春のアニメ特集(アニメ/計90分/幼児～小学生向け)
 - ①山に輝くガイド犬平治号(アニメ/28分)
 - ②よっちゃんの不思議なクレヨン(アニメ/22分)
 - ③ぞくぞく村のおバケたち(2話収録)(アニメ/40分)
 - ～妖怪レロレロ～(アニメ/20分)
 - ～とうめい人間サムガリー～(アニメ/20分)
- 4月2日 春のアニメスペシャル(アニメ/計81分/幼児～小学生向け)
 - ①1ねん1くみシリーズ(4話収録)(アニメ/51分)
 - ②忍たま乱太郎のがんばるしかないさシリーズ(3話収録)(アニメ/30分)
- 5月7日 GWアニメ特集(アニメ/計87分/幼児～小学生向け)
 - ①年中行事アニメーションPart1
 - ・なかよし鯉のぼり(9分) ・赤いカーネーション(10分)
 - ②こぎつねの交通安全(16分)
 - ③おれたちともだち!(4話収録)(52分)
- 6月4日 家族の絆(実写/計107分/一般向け)
 - サクラサク(実写/107分)

◆チャレンジ!はくぶつかん

毎月第2・第3土曜、日曜、祝日 小学生向け 随時受付
チャレンジ!マークをさがして はくぶつかんをたんけん!
3月12日・13日・19日・20日・21日 テーマ:底(そこ)
4月 9日・10日・16日・17日 テーマ:金(きん)
5月14日・15日・21日・22日 テーマ:東(ひがし)
6月11日・12日・18日・19日 テーマ:赤(あか)

◆たいけん教室～みんなのためそう～(事前申込制)

毎週日曜日 13:00～14:30
幼児(3歳以上で保護者同伴)・小学生5名程度
さまざまな遊びやものづくり、実験を体験してみましょう。
※全プログラム有料です(材料費/プログラムごと異なります)。
※要事前申込み。専用メールで受け付け、応募多数の場合は抽選いたします。1度に3名まで予約可能です。予約方法・予約状況・材料費はホームページでご確認ください。

3月	13日 オリジナル卵をつくろう 20日 天然石のフォトフレーム 27日 手づくり万華鏡	4月	10日 スライムであそぼう 17日 まが玉アクセサリー 24日 こいのぼりづくり
5月	1日 土器づくり 8日 アンモナイトの消しゴムづくり 15日 オリジナル卵をつくろう 22日 化石のレプリカ 29日 草花のそめもの	6月	5日 チャグチャグ馬こづくり 12日 砂絵 19日 手づくり万華鏡 26日 ウォータードームづくり

国際博物館の日

◆国際博物館の日記念 県博バックヤードツアー(事前申込制)

5月15日(日) 事前申込(応募者多数の場合は抽選) 各回定員5名
国際博物館の日(5月18日)にちなみ、普段は見られない収蔵庫などを特別にご案内します。いずれかのコースを選んでお申込みください。

- ①自然コース 10:20～11:40(所要時間約80分)
- ②歴史コース 13:20～14:40(所要時間約80分)

募集期間：4月5日(火)～4月26日(火)必着

応募方法：往復がききに①参加希望コース②参加者全員の氏名、電話番号を明記の上、当館「県博バックヤードツアー係」宛てに郵送してください。

利用のご案内

- 開館時間 9:30～16:30(入館は16:00まで)
- 休館日 月曜日(月曜が休日の場合は開館、翌平日休館)
年末年始(12月29日～1月3日)
- 入館料 一般310(140)円・大学生140(70)円・高校生以下無料
()内は20名以上の団体割引料金
- ※若手子育てパスポート所有者で、パスポートに記載のお子様と一緒に来館された場合は、入館料免除となります。
- ※学校教育活動で入館する児童生徒の引率者は、申請により入館料免除となります。
- ※療育手帳、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、及びその付き添いの方は無料です。
スマートフォンによる障害者手帳アプリ「ミライID」への対応を開始しました。

岩手県立博物館だより 第172号 令和4年3月1日発行	編集 岩手県立博物館 〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷34 Tel. (019)661-2831 / Fax. (019)665-1214 発行 公益財団法人岩手県文化振興事業団 〒020-0023 盛岡市内丸13-1 Tel. (019)654-2235 / Fax. (019)625-3595
-----------------------------------	---